

上毛三山の山岳信仰（普寛行者と御嶽教を中心に）

Mountain Worshin in the Gumma Jomou-Sanzan “Fukan performer and Mt Ontake Worship”

堀越教之*

Kyoshi Horikoshi

キーワード：普寛行者，御嶽信仰，妙義山金鶏山，榛名山相馬山，赤城山鈴ヶ岳，普寛行者遷化地，天台宗西福寺

Key words : Fukan performer, Mt Ontake Worship, Mt Myogi-Kinkeizan, Mt Haruna-Soumayama,

Mt Akagi-Suzugatake, Fukan transition place, Tendai sect Saifukuji temple

はじめに

「下仁田町自然史館研究報告」の第7号，第8号，第9号に『西上州の山岳信仰 上，中，下』として記載した。群馬地方の上毛三山にも，これと関連した普寛行者の山岳信仰が存在するので，今回はその山岳信仰を記載したい。

さらに普寛行者が遷化した埼玉県本庄宿は，神道として現代でも存在するのでこれを記載する。また前橋地区には存在する御嶽信仰の仏道が生かされているので，これも紹介したい。

金鶏山・相馬山・鈴ヶ岳の御嶽教

(1) 妙義山の金鶏山

上州の誇り高い三山は，妙義山，榛名山，赤城山であり，おそらく奈良時代からの信仰の山であった。江戸時代の後期，普寛行者によって御嶽教ができて上がった時代に，御嶽教の信仰の場所は，古代の信仰の場所とは異なった山岳の部分を選んだのである。

妙義山は，堀越（2024）「西上州の山岳信仰 下」で述べた金鶏山と筆頭岩である。

(2) 榛名山の相馬山

榛名山の御嶽信仰は黒髪山の古道にあり，相馬山とよばれた御嶽信仰の山である（第1図）。山頂（1411 m）は狭い場所であり，多くの石造物が建立されている（第2図～第6図）。

「御嶽山座王大権現」が山頂にあり（第4図），三体の中央でなく右側にある。座王大権現は明治18年に建立され，身体の高さは123 cmである。さらに「三笠山刀利大神」（第6図）と「八海山大神」（第5図）の存在と思われる石造物があるが，これらの文字は見当らない。

他にも理解できない石造物がある中で，分かるものを記載する。文字碑が多いが，文字碑でないものは記録する。

- ①物見塚守護神 十二神 昭和57年とある。（御嶽信仰とは思われない）
- ②馬頭尊 大正拾年 108 cm（小文字不明）
- ③薬師如来 ④庚申塚
- ⑤薬師如来 明治十五年（54 cm）石像仏
- ⑥不動明王三尊 明治四十年（不動明王は石像92 cm，童子2体は文字碑）
- ⑦不動明王（74 cm） ⑧寛瀧霊神，不動尊
- ⑨不動尊 ⑩正一位稻荷大明神

2025年2月2日受付。2025年2月10日受理。

* 〒370-2615 群馬県甘楽郡下仁田町宮室61番地 常光寺



第1図 榛名山相馬山



第4図 御嶽山座王大権現と部分拡大



第2図 薬師瑠璃光如来



第5図 八海山提頭羅神？と部分拡大



第3図 石造物三体



第6図 三笠山刀利神？と部分拡大

- ⑪三十六童子，八大童子（全て文字碑）
- ⑫黒髪山不動明王（85 cm）
- ⑬摩利支天尊（65 cm）
- ⑭天山御霊神（102 cm）

- ⑮黒髪山大開祖 天御嶽根主神（160 cm）
- ⑯如意輪観世音菩薩（線画像 菩薩名は文字碑 84 cm）

⑰不動明王 明治六年十一月吉日（75 cm）

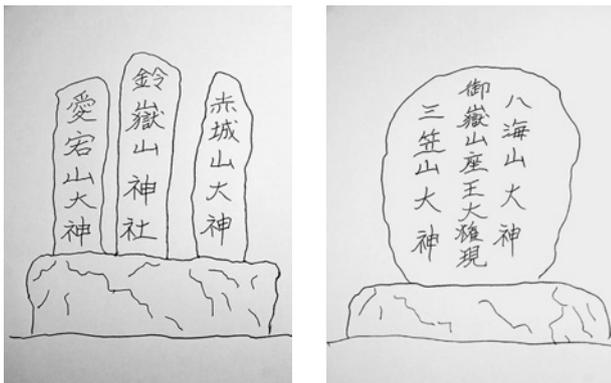
⑱黒髪山表口 明治十四年六月十日（165 cm）

この他にも石造物はあろうと思うが、平成元年に登山した時点、画帳に記したものを中心にして記載した。

(3) 赤城山の鈴ヶ岳

赤城山の御嶽信仰の山は「鈴ヶ岳」である。赤城山大沼湖へ下る前の富士見町赤城山から、鈴ヶ岳（1564 m）に登山した。登山した時点で記録した文字碑を整理する。

- ①天國玉神・宝國玉姫 ②一心誠明靈神
- ③覚明靈神 ④長崎神社
- ⑤「鈴ヶ岳山頂の文字石碑」（中央）鈴嶽山神社、（右）赤城山大神、（左）愛宕山大神（第7図左）
- ⑥「院号開山者（4霊） 右から、『八海院心霊、御嶽院心霊、宕院量霊、○嶽弥心○神』（○は不明）
- ⑦一心靈神 ⑧大山祇命
- ⑨普寛靈神
- ⑩「御嶽山岳信仰文字碑」（中央）御嶽山座王大権現、（右）八海山大神、（左）三笠山大神（第7図右）



第7図 鈴ヶ岳山頂の文字石碑（左）と御嶽山座王大権現（右）

鈴ヶ岳に普寛行者の師である覚明行者を祀っている。「覚明靈神」とあり、木曾御嶽山黒沢口を開山した行者である。鈴ヶ岳山頂には、御嶽教の文字石碑三体がある。

他に多数の石造物がある。すべて石碑であり石像はない。明治時代の始めに起こされた「神仏分離」により、神道を中心にした石碑である。鈴ヶ岳登山の日は雨に降られ、大きさの記録が困難となった。

普寛行者の遷化と御嶽信仰

(1) 普寛行者の遷化

遷化とは、この世の教化を終えて他国土の教化に移るという意味があり、高祖高僧や隠者をいう。隠者とは俗世間を離れ山奥などで暮らす人をいう。普寛行者が遷化したのは、1801（享和元）年71歳であり、武蔵国本庄の地であった。

普寛行者が遷化されてから67年後、1868（明治元）年の後半に廃仏稀釈が始まる。普寛行者の創作信仰は、仏教信仰と神道信仰に分かれてしまったのである。

(2) 廃仏稀釈と御嶽信仰

普寛行者が遷化した本庄宿には、寺院があったが、現在は「神道御嶽派」としている。1949（昭和24）年に宗教法人法がだされ、「宗教法人 御嶽教大本庁」とされた。本庄市の設置霊場は「御嶽教直轄 普寛大教会 普寛本庄霊場」とされる事になった。

明治元年頃から御嶽信仰の仏であり神であった尊者の名称も変更された。本尊「御嶽山座王大権現」は「くにひとごたちのみこと国常立尊」となり、「八海山提頭羅神王」は「おおなむちのみこと大己貴命」、すくなひこなのみこと「三笠山刀利天」は「少彦名命」となったのである。

(3) 普寛行者江戸時代の図像

本庄市に住む人から、江戸時代の普寛行者図像の複写を頂いた。縦 64 cm、横 26 cmの大きな図像である。次頁に縮小して紹介する（第8図）。

(4) 普寛本庄霊場の春季大会・秋季大会

現在、春季大会は4月10日、秋季大会は10月10日に開催される。この写真は春季大会の行事である（第9図～12図）。



第8図 普寛行者画像



第9図 釜湯荒行



第10図 三人護摩



第11図 大護摩供



第12図 大護摩火渡り

(5) 児玉町の普寛信仰

旧児玉郡児玉町，現在は本庄市児玉町に八幡神社があり，神社の奥に御嶽信仰の石造物が祀られている（第13図・第14図）．年代があり最も古い石造物は，大正九年とあり「猿田彦大神」「一心霊神」と彫られている．

1970（昭和45）年に「十二大権現」「大江大権現」が建立された．昭和45年は，普寛信仰が児玉町において，「児玉講」として信仰が始まってから80年の記念であると彫られた記念碑がある．児玉講が開始されたのは1890（明治23）年頃となる．

ここから近いところに，普寛神社が祀られている．1931（昭和6）年に普寛神社は始まり，「御嶽山

至誠教」と書かれている．

1982（昭和57）年に現在の本殿を完成した（第15図・第16図）．

山岳信仰といわれるが，八幡神社や普寛神社には坂は無く平坦な場所にある．木曾御嶽山に登ることを目的とする神社であるが，不動明王が建立されている．普寛行者を祀る神社であることから，当然であろう．



第16図 不動明王



第13図 児玉町八幡神社



第14図 普寛信仰の石造物



第15図 普寛神社 御嶽山至誠教

仏教信仰を選んだ普寛行者の弟子

(1) 西福寺の御嶽信仰

前橋市稲荷新田町に天台宗稲荷山西福寺がある（第17図）。建立時代は不詳とされているが、戦国年代末期明応年代頃といわれている。最初は真言宗であったが、江戸時代中期に稲荷新田村修験寺となり、不動明王（第20図）を祀り天台宗に改宗したという。現代は天台宗修験道御嶽山法流とし、意波羅山大権現を祀る。

堀越（2023）は、『西上州の山岳信仰 中』の秋葉山において、「意波羅山」の碑がある事を述べたが、普寛行者の出身地である秩父大滝村の意波羅山に存在する大権現を意味すると伝えられている。し

かし秩父には「意波羅山」と呼ばれる山はない。

不動明王本堂の前のお堂に、御嶽教神仏を祀るお堂があり写真を撮らせていただいた（第18図～第22図）。

天台宗修験道御嶽山法流の寺院は、群馬県多野郡上野村にも存在する。上野村檜原にある中正寺である。前条した西福寺の住職が中正寺を兼務し、毎年春には御嶽山法流の行事が行われる。

参考文献

安中山の会編（1990）群馬の山歩き130選。上毛新聞社、265p.

藤田庄市（2020）現代山岳信仰曼荼羅。山と溪谷社、237p.



第17図 西福寺山門



第18図 護摩堂



第19図 あびらほろんきりく



第20図 不動明王



第21図 八海山提頭羅神王



第22図 三笠山刀利天宮

- 福田アジオほか編 (2006) 日本民俗辞典. 吉川弘文館, 614p.
- 古川順弘 (2018) 神と仏の明治維新. 歴史新書, 洋泉社, 207p.
- 堀越教之 (2022) 西上州の山岳信仰 上. 下仁田町自然史館研究報告, 7, 11~20.
- 堀越教之 (2023) 西上州の山岳信仰 中. 下仁田町自然史館研究報告, 8, 1~12.
- 堀越教之 (2024) 西上州の山岳信仰 下. 下仁田町自然史館研究報告, 9, 1~10.
- 今泉淑夫編 (1999) 日本仏教史辞典. 吉川弘文館, 1117p.
- 岩鼻通明 (2017) 出羽三山 山岳信仰の歴史を歩く. 岩波新書, 219p.
- 上毛新聞社編 (1979) 群馬県百科事典. 上毛新聞社, 980p.
- 前田良一 (2006) 役行者. 日本経済新聞社, 402p.
- 松尾 翔 (2007) 西上州山村の石仏たち. 青娥書房, 287p.
- 三橋 健 (2008) 日本の神々事典・神徳由来. 学習研究社, 311p.
- 宮家 準編 (1985) 御嶽信仰. 民衆宗教史叢書, 雄山閣, 300p.
- 中村 元・福永光司・田村芳郎・今野 達編 (1989) 岩波仏教辞典. 岩波書店, 978p.
- 中村 元・久野 健編 (2002) 仏教美術事典. 東京書籍, 1035p.
- 中田祝夫 (1980) 日本霊異記 (下). 講談社学術文庫, 320p.
- 日本風俗史学会編 (1979) 日本風俗史事典. 弘文堂, 812p.
- 綿織亮介 (1983) 天部の仏像事典. 東京美術, 288p.
- 御嶽教大本庁宣教部 (1979) 御嶽教の歴史 開教九十五年の歩み. 御嶽教大本庁, 272p.
- 大久保良峻・山口耕栄・宇高良哲・千葉乗隆・竹貫元勝・廣瀬良弘・渡辺宝陽監修 (2009) 八宗総覧・日本仏教編年大鑑. 四季社, 571p.
- 太田昭彦 (2016) 山の神さま・仏さま. 山と溪谷社 ヤマケイ新書, 237p.
- 「下仁田町と周辺の地質」編集委員会編 (2009) 下仁田町と周辺の地質. 下仁田自然学校, 120p.
- 菅原信海 (2001) 日本人の神と仏. 日光山の信仰と歴史, 法蔵館, 259p.
- 菅原信海 (2003) 日本人の神たち仏たち. 春秋社, 226p.
- 菅原信海 (2007) 日本仏教と神祇信仰. 春秋社, 248p.
- 菅原壽清 (2002) 木曾御嶽信仰・宗教人類学的研究. 岩田書店, 354p.
- 宇治谷孟 (1992) 続日本紀 (上). 全現代語訳 講談社学術文庫, 講談社, 432p.
- 和歌森太郎編 (1975) 山岳宗教の成立と展開. 山岳宗教史研究叢書, 名著出版, 388p.
- ウエストン W (山崎武生訳) (1976) 日本アルプス・登山と探検. 日本山岳名著全集, 10, 三笠書房, 304p.
- 安丸良夫 (1979) 神々の明治維新. 岩波新書, 214p.
- 義江彰夫 (1996) 神仏習合. 岩波新書, 224p.

(要 旨)

堀越教之 (2025) 上毛三山の山岳信仰 (普寛行者と御嶽教を中心に). 下仁田町自然史館研究報告, 10, 1-6.

「西上州の山岳信仰 上, 中, 下」に記載した御嶽教は, 普寛行者が遷化した6年後から始まり, 現在まで250年が経過した. 今回は西上州を越え, 上毛三山 (妙義山・榛名山・赤城山) の御嶽信仰の山岳と普寛行者の信仰神社および山岳信仰仏教寺院を記載した.